

INFORMATION *Circular*

JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

■ 選挙結果報告	1
■ 会長再任に当たって(江口吾朗会長)	2
■ 第26回大会のお知らせ	3
■ DGDへ投稿される方へ(片桐編集主幹)	5
■ 新刊書紹介 “精子学”	6
■ 発生学者ホルトルレーター博士を悼む	8
■ お知らせ	9
■ 日本学術会議だより	13
■ 会員異動	17
■ 賛助会員	20
■ 広告掲載、賛助会員入会のお願い	21

NO. 73

DECEMBER 1992

日本発生生物学会

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学 理学部 動物学教室

会 長：〒 444 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中44
基礎生物学研究所 発生生物学系 形態形成部門
江口吾朗（電話 0564-55-7570）

D G D 編集主幹：〒 060 札幌市北区北10条西 8 丁目
北海道大学理学部動物学教室
片桐千明（電話 011-716-2111 内線 5298）

D G D 編集幹事：〒 724 東広島市鏡山 1-3-1
広島大学理学部動物学教室
鳴田 拓（電話 0824-22-7111 内線 2824）

事 務 局：〒 113 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学理学部動物学教室
（幹 事 長） 塩川光一郎（電話 03-3812-2111 内線 4431）
（庶務幹事） 田代 康介（電話 03-3812-2111 内線 4433）
（会計幹事） 浅野 美咲（電話 03-3812-2111 内線 4432）

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C21
財団法人 学会事務センター
日本発生生物学会担当係（電話 03-5841-5810）

日本発生生物学会への入退会，住所・所属変更，会費納入，および出版物（D G D，インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については，上記の日本学会事務センターに書面でお問い合わせ下さい。

日本発生生物学会第13期会長および運営委員選挙結果

1992年10月17日および11月27日に千葉大学理学部にて開票を行い、以下のように決まりました。

第二次会長選挙の結果（敬称略）

会長：江口 吾朗

（次点：岡田 益吉）

運営委員選挙の結果（50音順，敬称略）

運営委員：浅島 誠

安部 眞一

天野 実

井出 宏之

岡田 益吉

片桐 千明

佐藤 矩行

塩川光一郎

中辻 憲夫

長浜 嘉幸

藤沢 肇

星 元紀

八杉 貞雄

安増 郁夫

（次点：黒岩 厚）

以上

選挙管理委員長：大日方 昂

選挙管理委員：野川 宏幸

同：深町 博史

会長再任に当って

一昨年本学会の会長に選任されまして、2か年の任期を終えました。安増前会長及び運営委員各位はもとより会員の皆さんのご努力とご協力とによって、本学会はさまざまな問題をかかえ乍ら、今日まで健全に存立して参りましたことをまず心から感謝申し上げます。学会誌Development, Growth and Differentiationも編集主幹片桐千明先生と編集委員各位の並々ならぬご努力により、より良く発展しつつあります。たいへんご多忙の中をDGDの発展のために大きな犠牲を払ってこられました片桐主幹はじめ編集委員の先生方はもとより、学会運営の黒子として事務局を担当して下さった塩川光一幹事長及び幹事諸氏には感謝の言葉もありません。

さて、先の会長選挙にて、計らずも私が再任されましたが、これまでの2か年間に本学会がかかえている問題を何ひとつ抜本的に解決し得ませんでした非力を想いますと、これからの任期を会長としてどう処すべきか当惑を禁じ得ません。ひたすら、会員諸氏のご協力とご助力とを戴いて、成し得ることを地道にひとつひとつ片付け、学会のより良き発展に尽すことに専念するのみと存じます。

ところで、本学会は会員数が1,000名弱の比較的小規模な学会であります。年間約1,500万円を必要とするDGDを刊行して参りました。本誌は、発生研究領域の専門誌としては、2番目に古い“Embryologia”を継承したものでありまして、その意味では国際的な評価はそれなりに定着しております。しかし、今日同類の国際誌が数多く刊行されていることもありまして、発行部数が伸び悩み、したがって、刊行のための財源の大半を学会費に依存せざるを得ないことにより、本学会は深刻な財政難に直面しております。DGDのよりよい刊行の在り方を模索し、学会費の値上げを実施しないで本学会の財政を建て直し、より実質的な学会活動が展開できるような道を開くことが、今期会長に課せられた最も大きな責務であろうと存じます。会員の皆さんがこぞってよいお仕事をご寄稿下さることは、DGDの発展に最も寄与することにつながりますので、この点お心掛け下さるようお願いいたします。

わが国の基礎研究は多くの場合、国費で支えられているのが現状であります。幸い、平成5年度より、文部省科学研究費補助金の複合領域に発生生物学の細目が設けられましたことは、日本の発生研究者が組織する本学会の将来にとりまして、願ってもないことであります。折角の国家予算が公平かつ有効に配分されるような学会といたしましても格段の努力を傾ける必要を痛感しております。

本学会の発展はどのように見ましても会員の皆様のご協力なしには達せられません。今後、運営委員、編集委員、幹事、諸先生の叡智をいただいて、最善の努力を傾注する覚悟でございますが、会員各位お一人お一人のご協力とご助力を重ねてお願いいたします。

1992年12月

会 長 江 口 吾 朗

日本発生生物学会第26回大会のお知らせ

第26回日本発生生物学会大会は、1993年5月26日(水)～5月28日(金)に、福岡市リーセントホテルで開催されることになりました。皆様のご参加をこころからお待ちしております。

1) 期 日：1993年5月26日(水)～5月28日(金)

2) 会 場：福岡リーセントホテル(公立学校共済組合) 電話番号092-641-7741

福岡市東区箱崎2-52-1

福岡空港・JR博多駅から地下鉄(「中洲川端」で乗り換え)「箱崎宮前」で下車(所要時間約10～15分)、徒歩3分(地下鉄の福岡空港～博多駅間は、1993年3月開通予定)。タクシーは福岡空港から2000円くらい、JR博多駅から1500円くらい。

3) 参加申込

①同封の参加申込書に必要事項を記入して、1993年3月12日(金)(当日消印有効)までに申し込みください。

②申込先：〒812 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学理学部生物学教室

日本発生生物学会第26回大会準備委員会

③大会参加費：6,000円(学生・院生5,000円)

大会参加費は郵便局の定額小為替で、指定受取人を

福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部生物学教室

野村一也

として参加申込書とともに書留にてお送りください。

④懇親会を大会第2日目、5月27日に行います。参加をご希望の方は懇親会費5,000円を大会参加費に加算してお送りください。場合によっては、当日の受付ができないこともありますので、できるだけ大会参加申込といっしょにお申し込みください。

⑤同封の受取書の所定欄に名前および必要事項を、また表に郵便番号、住所および氏名を記入し、かならず切手を貼ってください。

⑥問合わせ先：準備委員会 092-641-1101・内線4408～4410(山名、野村、小林)

4) 研究発表

①申込期限：1993年3月12日(金) 当日消印有効

②本大会の研究発表は、口頭発表とポスター展示の併用で行います。発表者はどちらかを選択して申し込んでください。ご希望の発表形式を変更していただくようお願いすることがあるかも知れません。あらかじめご了承ください。

- ③研究発表の申込者は、(1)同封の参加申込書に必要事項を記入し、(2)発表要旨とともに書留でお送りください。なお、連絡書にも筆頭発表者（演者）名を裏面に、その連絡先を表の宛名欄に記入の上、かならず切手を貼ってお出してください。研究発表は1993年度までの会費納入者に限ります。連名で発表される場合には、筆頭発表者（演者）が申し込んでください。それ以外の方は、参加申込書の所定の欄に筆頭発表者名を記入してください。
- ④発表要旨の原稿は、そのまま写真印刷します。黒インクで明瞭に書いてください。タイプやワープロの場合には、濃いめにプリントするように気をつけてください。図表も印刷できます。英文タイトル、所属、氏名も所定の欄にご記入ください。
- ⑤口頭発表：発表時間は15分（発表12分、討論3分）。会場には35mm版（外枠50×50mm）、スライドプロジェクター1台を用意します。スライド枚数は1演題につき10枚以内とします。その他の映写機等の使用をご希望の方は、事前に準備委員会にご相談ください。
- ポスター展示：パネルサイズは180cm×180cmです。形式は特に定めませんが、最上段にタイトルを掲示してください。押しピン等は準備委員会で用意いたします。
- 5) 大会準備委員会では、宿泊のお世話はいたしません。交通、宿泊のお世話をする会社が明年4月上旬ごろ案内をお送りします。希望者は各自申し込んでください。（本サーキュラーにも申し込み用紙がついておりますので御利用下さい。）

発表要旨記入例

フォリスタチンによるアクチビンAおよび植物極化因子の 中胚葉分化誘導の阻害について

横浜太郎，港 花子（横浜市立大・生物）

Follistatin inhibits the mesoderm-inducing activity of activin A
and the vegetalizing from chicken embryos.

T, Yokohama and H. Minoto

Dept. of Biol., Yokohama City Univ., Yokohama 236

一個の卵細胞から完全な生物の形作りを行う過程のは複雑な現象が起こっている。組織、器官の形成には多段階的な誘導現象が起こっていると考えられる。両生類の形作りの中で最初に起こる誘導現象に桑実胚期から胞胚期にかけて起こる中胚葉誘導がある。

DGDへ投稿される方へ

DGDでは下記の要領で、組版作成にフロッピーディスクを利用することにしました。組版作成時のタイプミスの防止と刊行のスピードアップを図るため、投稿者各位のご協力をお願い申し上げます。

- (1) 投稿は従来通りの方式でお願いします。
- (2) 投稿論文の採択通知を受け取った時点で、最終原稿の入力されたフロッピーディスクを編集幹事宛送って下さい。使用できるディスクは、5.25インチ(MD)あるいは、3.5インチ(MF)のものです。
タイプライターを使って作成した原稿の場合はその旨編集主幹にご連絡下さい。
- (3) フロッピーディスクの原稿ファイルは、全ての改訂を含み、最終原稿の内容と完全に一致するようにして下さい。著者のプリンターで印字できない特殊な文字や記号は、ファイルの該当箇所を空白にし、原稿に赤で記入しておいて下さい。本文と図説明をディスク中でそれぞれ別のファイルにして下さい。もし、表もファイルに入れる場合は、それも別のファイル名にして下さい。各ファイルには、その内容が判るようにファイル名を付けて下さい。表や数式は、従来通りのタイプ原稿でも結構です。なお、右マージン揃えは行わないで下さい。
- (4) ディスクのラベルには、著者名、使用したコンピューター名、使用したプログラム名、編集委員会で付けた原稿番号を明示して下さい。
- (5) 印刷所ではたいていの機種とプログラムに対応できますが、送っていただいたディスクを使わず、原稿から組版することもありますので、あらかじめご了承下さい。
- (6) ディスクについての問い合わせは、編集幹事または下記へお願いします。

739-17 広島市安佐北区上深川町809-5

大学印刷株式会社

TEL082-844-7500

FAX082-844-7800

投稿に当たってはDGD各号の Notice to Authors をご参照下さい。

References の書き方がまちまちで困っています。 Notice to Authors 中の例に倣って下さるようお願いします。

表紙の写真を募集しています。採択論文中の表紙に適当な写真を著者から推薦して下さい。ありがたく存じます。表紙には写真2葉を使っています。写真のサイズはそれぞれ横98mm、縦65mmです。

DGD編集主幹 片桐 千明

【新刊書紹介】

「精子学」 毛利秀雄監修・森沢正昭・星 元紀編

全体で350ページ，12,360円(税込み)，1992年，東京大学出版会

その序文にあるように，“生物にとって「殖える」，「子孫を残す」という生殖現象はもっとも大切な営みのひとつである”。本書はその生殖の際の $\frac{1}{2}$ の働きを担っている(残り $\frac{1}{2}$ は卵子といえるから)。精子についての，現在の知見の結集といえる成書である。精子の発見は1677年というから，その最初の発見から300余年後の現状といえるわけであるが，その研究の本格的発展は比較的最近のことである。その序文によると，わが国では1972年に西川義正先生の監修，飯田勲先生の編集により『哺乳動物の精子』が刊行されて以来，その後の研究の進展にも拘らずそれを十分に伝える精子に的を絞った本はほとんど刊行されていない。そのような状況下で編集者である森沢・星両教授の発案でこれが成された。監修者の毛利秀雄教授が永年勤務された東京大学を退官されるのをきっかけとして，最近の精子に関する知見をまとめ『精子学』として世に問いたい，ということになり，本書が誕生したというわけである。

編者のことばにも表わされているが，精子の学問には単に生物学としての側面があるにとどまらず，われわれ人類の未来を左右する可能性も大きいためそこから派生する倫理的な問題あるいは自然保護問題としての側面もある。故に，これらの両方の関連の問題を含めて総合的な精子学をめざしている点は本書の大きな特色といえよう。そのため，理学・農学・医学など広範な領域に亘る研究者が執筆している。とり挙げた対象としても原生動物からヒトに至るまで多くの動物が含まれている。全体は20章から成り，第1章から第12章までは精子の構造と機能についての基礎の研究に当て，第13章から第19章までは応用面についての研究を当て，最後の第20章には将来の展望が述べられている。このなかで，ちょっと興味深いのは用語の取り扱いについてである。執筆者が主に身を置いている分野によって，同じ英語に当たるものでも微妙に用語の使い方が違うのである(たとえば，acrosomeが先体であり，また尖体でもあるし，また Spermatogonium が精原細胞であり，また精祖細胞であるようなこと)が両編者は敢えて無理にその統一を行わず，夫々の執筆者の自主性にまかせている。

これは，この紹介者の主として取り扱っている初期発生分野でも，両生類の部分では gastrulation と囊胚形成ということが多いのに，鳥類や哺乳類の部分ではむしろ原腸形成の字を使うことが多いのに対応するようなことで，面白いことである。

そこでこの本の内容を簡単に紹介するために，以下に各章の目次を挙げ，新刊書紹介ということにさせていただきますことにしよう。第1章，精子研究の歴史(約20ページ)。第2章，精子の基本構造(約17ページ)。ここには精子の多様性と形態研究の方法論も含む。第3章，精子の形成(約23ページ)。ここは *in vivo* と *in vitro* (培養学)における精子のゲネシス。第4章，精子核の凝縮と膨潤(約13ページ)。主として精子核の形成と卵内でのその変身。第5章，精子の運動機構(約20ページ)。鞭毛の構造と機能の問題。

第6章, 精子運動の調節(約14ページ)。精子運動のいわば生理学といったところ。第7章, 精液の生化学(約13ページ)。精子厚形質膜の問題と精液の生化学。第8章, 精子のエネルギー化論(約12ページ)。精子の関係する降糖・呼吸および高エネルギーリン酸化合物。第9章, 精子の受精能獲得(約12ページ)。主に, いわゆるカパシテーション。第10章, 先体反応と受精((約12ページ)。ウニ, ホキ, 哺乳類の先体(尖体)反応から始め, 膜融合まで。第11章, 精子における遺伝子,(約10ページ)。特にY染色体について。第12章, 精子と進化(約14ページ)。精子学の系統学といったところで21の動物群のうち, 解説。第13章, 精子の運動測定法(約10ページ)。主として生理学的測定装置の使用法。第14章, 精子の凍結保存(約21ページ)。ウシ, ブタ, ヒト, サカナの精子取り扱い法。第15章, 抗精子抗体(約13ページ)。精子抗原の分析。第16章, ヒトX, Y精子の分離(約17ページ)。まさに標題の通り, 精子の分離法について。第17, 男性不妊(約19ページ)。精子学の医学的側面, 男性側の原因による不妊症とその治療まで。第18章, 男性避妊((約10ページ)。避妊法についての解説。第19章, 生殖の人為調節と人工受精(約25ページ)。ヒトの生殖の人為操作に関する問題から畜産および, 自然保護の例としてのトキの現況とその繁殖の試み。そして最後に第20章, 今後の展望(約14ページ)。精子学の基礎から応用まで。最後に付録というかたちの出てきた動物の分類表がある。

以上から大体おわかりと思われるが, 文字通り広範な, 現代における精子学の集大成といえる好見であろう。

塩川光一郎(東京大学・理学部・動物学教室・分子発生学研究室)

発生学者ホルトフレーター博士を悼む

埼玉大学理学部 石 原 勝 敏

11月15日 日曜日の早朝、ホルトフレーター夫人から国際電話が入りました。「主人、ハンス・ホルトフレーターが13日の午後3時亡くなりました。今年の始め頃から体が弱ってきたのですが、やはりだめでした。お目にかかることができずに、残念がっておりました。」私はしばらく言葉を失いました。

ホルトフレーターは1901年1月9日生まれ、91才を越えてお元気でした。数年前、岡田節人先生はじめ多くの方々のご賛同をいただき、1カ月日本にお迎えしようと考えたことがありました。学術振興会の助成が叶ったのですが、高齢の博士の体調を考えて、実現しないで終わりました。それ以来ホルトフレーターの健康が気になっていました。

10年前（そんなになるとは思えませんが）、ホルトフレーターからオルガナイザーの研究にまつわる長文の手紙をいただき、雑誌「自然」に訳文をのせたことがありました。シュペーマンの弟子として研究の足跡を綴ったものでした。1924年にシュペーマンとヒルデ・マンゴル트의共著で発表された著名なオルガナイザーの研究にみられる移植胚の死亡率を抑えるために考案された、ホルトフレーターの生理的塩類溶液（1931年）は有名です。その移植実験の再現を高めたことは言うまでもありません。翌年（1932年）にオルガナイザーの誘導源が化学物質であるという実験を可能にしたのもこの緩衝塩類溶液のおかげだったと思います。この論文はオルガナイザーの本体を探るための、それ以降の30年間の研究の歴史の出発点となりましたが、一度は未解決のまま幕を閉じ、ホルトフレーターの心の中に、プログラムされた自律分化の概念を生み、オルガナイザーが分化の引き金になる（許容的誘導）と考えたようです。今ではオルガナイザー自身も誘導される（中胚葉誘導）ことが知られるようになり、化学物質説が再燃していることをホルトフレーターも知っているだろうと思うことが私の喜びです。

ホルトフレーターは鋭い洞察力をもち、常に先駆的な仕事をした偉大な発生学者ですが、もう一つ特筆しなければならないことがあります。それは選択的細胞親和性の概念です。タウンズとの共著で発表された三胚葉の解離細胞が選別の結果、各細胞が特定の位置と構造を保つという研究（1955年及び1960年代）は、現在の形態形成の研究への画期的な導火線になったと思います。

ホルトフレーターは「私はもう化石だよ」とよく言っていました。私はもっと早く若いときにお逢いできたらよかったのにと何度思ったかわかりません。ホルトフレーターの闘志を内に秘めた不屈の面構えを多くの方に知ってもらえなかったことが残念です。ホルトフレーターは私への手紙の中で「宏子と幸せな結婚をした」と書いておられます。以後の文通で私はそれを実感しました。苦難と栄光に満ちた研究生活の後半は穏やかで幸せな生活だったように思います。

宏子夫人（旧姓 坂宏子）は東北大学出身でお茶の水女子大学の講師を務めておられましたが、結婚後はホルトフレーターの後半の人生を支えてこられました。宏子夫人には、今後偉大な科学者の思い出を偲ぶ生活が始まり、ホルトフレーターが着眼したオルガナイザーと形態形成の研究

の発展を見守ることになると思います。そして、ホルトフレーターがよく口にした分化の潜在能力と遺伝子の情報発現の関係が解明される日を夫人自身の目で確かめてほしいと願っています。

1992年11月23日

公益信託・團生物科学国際基金

平成4年度助成金が下記の通り決定しました。

氏 名	所 属	受入研究先／国際会議 開催地	研究期間／ 会議開催期間	助成金額
古 川 和 広	名古屋大学	(長期国際共同研究) The Scripps Research Institute in Calif. U.S.A.	'93. 4 ~ '95. 3	90 万円
OYAMA Nakagawa A. Ken	メキシコ	東京大学教養学部 生物学教室	'93. 8 ~ '93. 10	90 万円
岩 崎 望	高知大学	(短期国際共同研究) Victoria Univ. of Wellington, New Zealand	'93. 11 ~ '93. 12	50 万円
Todd K. FULLER	米 国	北海道環境科学研究センター	'93. 10	50 万円
Debra Ann Full	米 国	(国際研究集会—研究発表) 11th Intl' Symposium on Olfactio and Taste 札幌	'93. 7 .	25 万円
Dayi QIN 秦 達意	中 国	American Heart Association 65th Scientific Sessions New Orleans, U.S.A.	'92. 11 .	25 万円
今 西 規	東京大学	4th Asia Oceania Histocompatibility Workshop and Conference, Perth, Australia	'93. 4 .	25 万円
山 田 葉 子	京都大学	Intl' Dictyostelium Conference, Noordwijkerhout, Netherlands	'93. 5 .	25 万円

團勝麿・團ジーン両先生のネーム入り椅子寄贈のためのMBLへの寄付について

拝啓 急ぎ足で秋の深まるこの頃ですが、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、團ジーン先生が館山で永眠されてからすでに14年近くになります。

團勝麿先生は去る10月16日で米寿を迎えられ、視力を落されたものの、なお、かくしゃくとしておられます。両先生にとって、三崎臨海実験所、館山臨海実験所とともに、Woods Hole MBLは、国際的な活躍の場として欠かすことのできなかった臨海実験所ですから、本来もっと早くこの計画を進めるべきでした。遅ればせながら、両先生の長年のご指導を感謝し、Marine Biological Laboratory, Woods Hole の Lillie Auditorium に両先生のネーム入りの椅子を寄付するための募金を発案させていただきます。

なお、MBLへの寄付金額は2,000ドルですが、皆様方からのご寄付が必要額を超えた場合は、その分を公益信託團生物科学国際基金に振り込ませていただきたく存じます。ご了承いただければ幸いです。

よろしくご支援のほどお願い致します。

1992年10月12日

発 起 人 公益信託團生物科学国際基金運営委員会

酒 井 彦 一
能 村 堆 子
濱 口 幸 久
平 本 幸 男（委員長）
星 元 紀
毛 利 秀 雄
安 増 郁 夫

記

募 金 額 一口 3,000円
振込み先 團先生の米寿を祝う会
(郵便振替)

口座 { 番 号 東京8-759282
名 称 團先生の米寿を祝う会

切 平成5年1月15日

第33回日本先天異常学会学術集会 予告

第33回日本先天異常学会学術集会を下記のごとく開催いたします。多数の方々の演題応募と学術集会へのご参加をお待ちいたします。

第33回日本先天異常学会学術集会

会 長 三 浦 隆 行

(名古屋大学医学部整形外科学教授)

記

会 期 平成5年7月21日(水)・22日(木)・23日(金)

会 場 名古屋市中小企業振興会館(吹上)

学術集会

1. 会長講演

「手の先天異常」 三浦 隆行(名古屋大学 整形外科)

2. 招待講演

「Cellular positional information in chemical and genetic teratogenesis」

Nigel A. Brown, Ph.D. (St. George's Hospital Medical School)

3. シンポジウム

- (1) 先天異常における最近の染色体研究
- (2) 顎顔面先天異常の臨床
- (3) 先天性骨系統疾患の基礎と臨床 ―小人症を中心に―
- (4) 臓器別胎児異常の出生前診断とその治療
- (5) 神経提細胞と先天異常
- (6) 四肢の先天異常 ―その基礎的・臨床的研究の発展―

※学会出席、研修講演など、各科の臨床認定医資格継続申請に必要な手続を行っております。

詳細はプログラムに掲載いたします。

演題募集

日本先天異常学会誌「先天異常32巻4号(12月発行予定)」に綴込みの案内に従い、同誌に綴込みの用紙を使用してください。なお2題以上出題予定の方、未入会で出題希望の方は送付先住所・氏名を明記して、返信用切手¥175を同封のうえ12月1日以降に下記事務局まで直接応募用紙を請求してください。

演題応募締切り 平成5年3月31日(水) 必着

連絡・問い合わせ・応募用紙請求先

〒461 名古屋市東区白壁1-45 白壁ビル6階

(株)セントラルコンベンションサービス 内

第33回日本先天異常学会学術集会 事務局

TEL 052-971-5552 FAX 052-951-3600

細胞の機能再現を重視した培養システムの構築

—— 発生学, 薬理学, 臓器工学の接点を目指して ——

場 所 東京医科歯科大学 1号館 9階 特別講堂

開催日時 1993年1月29日(金) 10:30~17:00

(終了後懇親会を開催します)

プログラム

- 10:30~10:35 御挨拶 <日本組織培養学会細胞工学委員会 委員長 小林茂保>
10:35~10:40 御挨拶 <日本組織培養学会 会長 蔵本博行>
10:40~11:25 形態形成の分子生物学 — カドヘリソからエピモルフィンへ — <バイオマテリアル研 平井洋平>
11:25~12:10 細胞外マトリックス系と組織構築 <東京医科歯科大・難治研 畑隆一郎>
12:10~12:55 再構成培養皮膚を用いたがん研究 <東大・医科研 黒木登志夫>
12:55~14:00 昼 食
14:00~14:45 軟骨と骨形成の分子生物学 <阪大・歯 鈴木不二夫>
14:45~15:05 新しい神経軸索形成(伸長)因子 <横浜市大・医 堀江秀典>
15:05~15:30 中枢神経細胞のパターン形成を目指して <バイオマテリアル研 渡辺芳明>
15:30~15:45 休 憩
15:45~16:05 培養系での血管形成とその応用 <工技院・微生物工業技術研 三井洋司>
16:05~16:25 マイクロキャリアー培養下での血管内皮細胞の機能亢進 <東レ・基礎研 佐野恵海子>
16:25~16:45 ラ氏島細胞のマイクロカプセル化 — 細胞移植を目指して — <国立循環器病センター研 岩田博夫>
16:45~17:05 臓器の臓器工学 — 培養系での人工臓器を目指して — <東工大・生命理工 赤池敏宏>
17:30~19:00 懇親会『グリル・セインツ』(東京医科歯科大 1号館9階)

【実行委員会】 小林茂保, 吉里勝利, 佐野恵海子, 赤池敏宏, 小山秀機, 野田浩一, 増井徹

【協 賛】 日本動物学会, 日本細胞生物学会, 日本生化学会, 日本癌学会, 日本薬理学会, 日本薬物動態学会, 日本薬学会, 日本医学会, 日本発生生物学会, 高分子学会, 日本化学会, 日本バイオマテリアル学会, 日本人工臓器学会, 分子生物学会, 器官形成研究会, 日本動物実験代替法学会, 日本毒性病理学会, 日本動物細胞工学会, 日本農芸化学会, バイオインダストリー協会, 日本病理学会, 繊維学会, 日本肝臓学会, 日本製薬団体連合会, 日本糖質学会, 日本糖尿病学会, 日本結合組織学会

<一部交渉中>

【会 費】	学 生	本学会会員, 協賛学協会会員	非会員
	大学・官公庁	1,000円	2,000円
	企 業	2,000円	4,000円
	企 業	4,000円	8,000円

(会費は当日会場にて
お支払下さい。)

【懇 親 会 費】 6,000円

【申 込 方 法】 お手紙又はFAXにて, 参加者氏名, 所属(住所, 団体名, 電話, FAX), 所属学協会を御記入の上, 下記申込先までお申込下さい。(先着150名で〆切らせていただきます。)

【申 込 先】 〒227 横浜市緑区長津田町4259 東京工業大学 生命理工学部 生体分子工学科 赤池 敏宏

TEL 045-922-1111 内線2555 FAX 045-921-1089

— 共同主催国際会議閣議了解得る —

平成4年9月 日本学術会議広報委員会

平成5年度の日本学術会議の共同主催国際会議6件については、平成3年5月の第111回総会において決定されましたが、政府としても、本年6月30日の閣議において、これらの会議を日本で開催すること及び所要の措置を講ずることを了解しましたので、お知らせします。

平成5年度の共同主催国際 会議の閣議了解

1. 日本学術会議では、昭和28年9月の国際理論物理学会議、昭和30年の国際数学会議の開催以来、平成3年度までに123件、本年度も6件の国際会議を関係の学会と共同して開催し、我が国のみならず世界の学術水準の向上に努めてきたところである。平成5年度にも、下記の6会議の共同開催を既に平成3年5月に決めているが、本年6月30日、政府全体としても、これらの会議の開催とこれについての所要の措置（会場・警備・入国手続き上の配慮・予算措置等）を講ずる旨の閣議了解を行った。

（平成5年度開催会議）

- ・アジア社会科学研究所協議会連盟第10回総会
平成5年9月5日から11日（川崎市・かながわサイエンスパーク）
- ・第15回国際植物科学会議
平成5年8月23日から9月3日（横浜市・横浜国際平和会議場）
- ・第7回太平洋学術中間会議
平成5年6月27日から7月3日（沖縄県宜野湾市・沖縄コンベンションセンター）
- ・第24回国際電波科学連合総会
平成5年8月23日から9月3日（京都市・国立京都国際会館）
- ・第21回国際純粋・応用物理学連合総会
平成5年9月20日から25日（奈良県奈良市・奈良県新公会堂）
- ・第6回国際気象学大気物理学協会科学会議及び第4回国際水文科学協会科学会議合同国際会議
平成5年7月11日から23日（横浜市・横浜国際平和会議場）

（閣議了解の内容）

〔各国際会議ごとに了解〕

1. （各会議名）を（共同主催学会名）と共同して平成5年度に我が国において開催すること。
 2. 関係行政機関は、上記会議の開催について所要の措置を講ずること。
2. なお、国際会議共同主催の申請から決定までのスケジュールはおおむね次のようになっている。
- ・会議開催3年前（年末まで）申請募集
 - ・会議開催2年前（2-3月頃）
関係部会、運営審議会附置国際会議主催等検討委員会でのヒアリング等

（3-4月頃）

運営審議会での決定、総会への報告

・会議開催1年前

（6-7月頃）

閣議了解（政府としての共同主催正式決定）

共同主催学会との合意書締結、組織委員会の発足

現在本年年末締切りの平成7年度共同開催会議の募集を広報しているところである。（詳細は、日本学術会議月報をご覧ください。）

日本学術会議主催公開講演会

本会議では、毎年公開講演会を開催しています。この講演会は会員が講師となり、一つのテーマを学際的に展開しています。この秋には二つの講演会の開催が決まりましたので、お知らせします。多数の方々のご来場をお願いします。入場は無料です。

I 公開講演会「20世紀の意味と21世紀への展望」

日時 平成4年10月5日（月）13:30-16:30

会場 日本学術会議講堂

演題・演者

「国際政治の観点から - 『長い平和』は持続可能か」

永井陽之助 第2部会員

（青山学院大学教授）

「文明論的観点から」

弓削達 第1部会員

（フェリス学院大学学長）

「科学・技術の観点から」 伊達宗行 第4部会員

（大阪大学理学部長）

II 公開講演会「医学からみた日本の将来」

日時 平成4年11月28日（土）13:30-16:30

会場 金沢市文化ホール 大集会室

金沢市高岡町15-1 TEL 0762-23-1221

演題・演者

「子どもたち」

馬場一雄 第7部会員

（日本大学名誉教授）

「成人病」

五島雄一郎 第7部会員

（東海大学教授）

「医療技術の開発」

渥美和彦 第7部会員

（東京大学名誉教授）

「食物と栄養」

内藤博 第6部会員

（共立女子大学教授）

「医療制度の将来」

下山球二 第2部会員

（大東文化大学教授）

物理学研究連絡委員会報告 「物理学研究の動向と将来への課題」

7月24日の運営審議会において標記の報告の公表が承認された。1970年代から1980年代にわたって、日本の物理学の研究動向、研究環境を、かなり厳しい批判的スタンスで蒐集した客観的データに基づいて分析し、1990年代における日本の物理学の課題を展望しようとする野心的な報告である。日本の物理学研究・教育の将来を論ずるための不可欠の資料といえる。A4版112ページにまとめられており、日本物理学会の協力を得て、同学会会誌別刷の形で関係者に公開される予定である。

本報告は、もと第14期物理学研究連絡委員会が、久保亮五委員長長の提案に基づいて「物理学の研究・教育に関する調査小委員会」（委員長岡洋介京大基研所長、幹事中井浩二高エネ研教授、委員小林俊一東大理、鈴木洋上智大理I、玉垣良三京大理、平田邦男山梨大教育、小沼通二慶大理の各教授）を設置してデータの蒐集・分析・要約を1990年7月から1991年5月にわたって精力的に行い、1990年6月20日の物理学研究連絡委員会全体会議に提出されたものである。第14期物研連任期終了に伴い、報告書及び今後の進め方についての取扱いを次期物研連への引継事項とした。これを受けて、第15期物理学研究連絡委員会は1992年5月22日の全体会議において本報告の取扱いについて協議し、公表を決定して中嶋貞雄委員長を通じて7月7日の第4部会の手承を求め、運営委員会に提案することとなった次第である。

本報告書が、日本の物理学の研究・教育に関心を寄せる多方面で活用されることを期待したい。

物理学研究連絡委員会報告 「理論物理学の研究体制の充実について」

7月24日運営審議会において標記の報告の公表が承認された。湯川秀樹博士のノーベル賞受賞にちなんで初の全国共同利用研究所として設置された京都大学基礎物理学研究所と一般相対論のユニークな研究で知られる広島大学理論物理学研究所は、1990年に統合され、内外の期待を集めつつ、理論物理学の総合的研究を目指す拡充・強化された基礎物理学研究所として再発足することとなった。しかし、現実には分野間の均衡が十分でなく、また北白川と宇治に建物が分離されている等、統合の実を十分に挙げ得ない現状である。

1992年5月22日の物研連全体会議は、このような状況の改善が速やかに改善され、理論物理学における日本の輝かしい伝統が復活されるよう、関係各方面に報告、支援を要請することとなった。

材料工学研究連絡委員会報告 「繊維工学研究・教育に関する諸問題」 産・学協力による繊維工学研究と教育の振興

わが国の繊維産業はかつて、日本を支える大産業であった。石油危機、貿易摩擦などによって低迷を余儀なくされた時期もあったが、今日では先端産業の要素技術ともな

て、その裾野を拡大し、また新合繊に象徴されるような高度機能商品を開発し、日本は世界のトップレベルを行く繊維技術国となった。現在繊維産業の従業員数は280万人、総取引額は約64兆円に達し、日本産業の中でも上位を占める基幹産業となっている。

この繊維産業を支える繊維科学技術教育を見ると、かつて国立大学には3つの繊維学部と、染色化学・加工学を含めて19の繊維関連学科があったが、産業構造の変化と共に改組転換されて、今日では繊維系学生の実員50人と激減するに至っている。大学院教育では、繊維学研究科の名称は一時期全廃された。その後、産・学の強い要望によって、平成3年に信州大学工学研究科に、繊維生物機能科学、繊維機能工学、繊維極限材料工学の3大講座が唯一設置されるに至った。

ところが、繊維産業の将来は、世界人口の増加、発展途上国の1人当たりの繊維消費量の増加から、繊維需要は膨大な成長力を秘めている。さらに、消費者主導型経済社会となって、ファッションにも、色、柄、デザインに加えて高機能性と加工技術が重要となってきた。また、繊維素材から最終商品までをシステム化した生産・物流技術、産業資材用途の拡大、地球環境改善への用途開発への期待高性能スーパー繊維による航空・宇宙、海洋、原子力、土木・建築分野への貢献、光ファイバーによる情報通信分野、中空糸による人工腎臓、酸素濃縮などヘルスケア分野、海水脱塩造水など先端分野でも重要な産業として自立しつつある。

こうした繊維産業発展の基礎となる高度技術の開発を促進し、その力を次世代へと継承させるためには、高度に訓練・教育された人材の育成が不可欠である。我が国にとって、繊維科学技術の研究・教育機構の再構築は焦眉の急となっている。これに対して、欧州ではEC統合を控え、各国の特徴に応じ産学協力し、繊維系大学の単位互換制度を指向するなど、繊維技術教育の再活性化に成功している。米国では繊維関連大学が十数校もあり、その中でノースカロライナ州立大学を繊維科学技術教育のセンターとして、ニューヨーク州立ファッション工科大学をアパレル・ファッション教育のセンターとして位置付けて、全世界へ人材を送り出している。

我が国で、産学協力して設立する機構としては、全国繊維関連大学、研究所、及び地域産業を結ぶ役割を持ち、我が国の優れた繊維工学知識の世界への発信と、国際的人材育成への寄与のため、欧州、米国と並ぶ、東アジアの繊維科学・技術の中心機構として活動することが望まれる。

この活動は、我が国に全世界の人々から期待されている国際貢献の一つとなろう。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

秋の総会開催される

平成4年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は去る10月21日から23日まで、第115回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、同総会の議事内容及び総会中に発表した会長談話等についてお知らせします。

日本学術会議 第115回総会報告について

日本学術会議第115回総会（第15期・第4回）は、10月21日～23日の3日間開催されました。

総会の初日は、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、運営審議会附置委員会、部会、常置委員会、国際対応委員会、特別委員会の各委員長、部長からの報告がありました。また、本年9月27日から10月11日までの間、二国間学術交流委員会の代表団がアメリカ合衆国を訪問し、アメリカ合衆国の学術の現状を視察するとともに、大統領補佐官を始めとする連邦政府機関の関係者、国立科学財団の関係者、その他関係機関の関係者との意見交換を行い、多大なる成果が得られたとの訪米報告が行われました。午後からは各部会が開催され、国際対応委員会や研究連絡委員会の在り方等について審議が行われました。

なお、二国間学術交流の成果等に関する「平成4年度日米学術交流について」の会長談話を21日付けで発表しました。

総会2日目は、学術分野における国際貢献に関しての自由討議が行われ、国際貢献の意義、方針等について活発な討議が行われました。本件については、日本学術会議第15期活動計画の中に重点目標として掲げられており、また、昨年秋の第113回総会において内閣官房長官から、学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し、意見を出すよう求められ、以来、日本学術会議としては重要案件として審議してきたものです。

午後からは、米スペースシャトル「エンデバー」で微小重力実験に取り組んだ毛利衛さん、向井千秋さん、土井隆雄さんの三宇宙飛行士を招き、実験成果等の報告をしていただくとともに会員との意見交換が行われました。

なお、「学術分野における国際貢献について」の会長談話を22日付けで発表しました。

総会3日目は、文化としての学術特別委員会を始めとする各特別委員会、各常置委員会が開催されました。

平成4年度日米学術交流について(会長談話)

平成4年10月21日

- 1 本年度の日本学術会議の二国間学術交流事業として、9月27日から10月11日までの2週間にわたり、私を団長とし、各部所属の会員7名、その他事務局2名、計10名で構成する代表団がアメリカ合衆国を訪問した。
- 2 今回の日米学術交流は、21世紀に向けて我が国の学術の発展向上を図るためには、日米両国の緊密な連携協力が不可欠であることから、アメリカ合衆国の学術研究の現状と動向について調査するとともに、関係機関の責任者等と忌憚ない意見交換を行うためであった。なお、この機会に、いわゆるビッグ・サイエンスの象徴ともいえるべきSSC、NASA、NIH等の現地視察を行った。
- 3 連邦議会の会期末で1993年度予算案の調整等のため極めて多忙な時期であったにもかかわらず、いずれの機関においても、トップ又はそれに準ずる責任者が自ら出席するなど、代表団は温かく誠意あふれた応接を受け、関係者の日本の学術への期待が極めて大きいことが印象的であった。代表団の感想として特記すべき点をいくつか挙げれば、次のとおりである。
 - (1) アメリカ合衆国の学術政策の基盤は、確固たるものがあり、これに割り当てられる国家予算のスケールも大きい。これは、学術に対する同国の期待の大きさを表すものである。例えば、1863年にリンカーン大統領のイニシアティブで設立された科学アカデミーは、政府からの独立を前提とし、政府、議会の諮問に応えるなど、政府、議会との緊密な連携の下に、国民並びに人類の福祉の向上に寄与しているが、その後設立された工学アカデミー、医学会とともに、総額約250億円余に上る予算を毎年政府から受け取っている。これは、日本学術会議の使命と今後の発展を考える上で参考となるものである。

(2) 学術の国際協力については、日米両国は、経済力、先端科学技術の水準から見ても、世界の中で指導的役割を果たすべき立場にあり、両国の学術交流を中心として新しい時代の知識と技術を創造し、人類の発展に寄与していく必要がある、との認識がアメリカ合衆国の関係者にあり、我が国としても、このことを考慮すべきである。

(3) 日本政府が本年4月に決定した科学技術政策大綱における国家予算の倍增計画については、アメリカ合衆国の関係者は、大きな期待と好意をもって注目している。

(4) SSC、宇宙開発などのビッグ・サイエンスについては、それぞれの計画が学術における開拓者精神とでもよぶべき情熱をもって推進されていることを、認められた。特に、3名の日本人宇宙飛行士達との懇談は感動的ともいべき印象を残した。

また、SSC計画への資金面での参画問題については、我が国の学術研究の基盤自体が不十分であり、これの充実強化が優先的課題であること、欧州やアジア諸国等との協力をどう考えるか、SSC計画自体への国民の理解をどう促進するか、など今後早急に検討しなければならない課題があること、などの当方の説明に対して、これを傾聴する姿勢が見られた。

4 今回の日米学術交流の間に形成された代表団の一致した認識は、冷戦終焉後の新しい世界秩序形成過程における諸課題の一つとして、学術のあらゆる領域にわたっての国際協力が今後ますます重要性を持つということであった。そのことは、今回の代表団へのアメリカ合衆国側の対応からも十分窺われるところであった。

5 代表団としては、今回の訪米の結果について、総会、運営審議会、その他の関連の委員会等において会員に報告するとともに、政府関係者に対しても、必要に応じて報告を行う予定である。その上で、日本学術会議会員はもとより、政府並びに国民の間で、我が国の学術に関する国際協力・貢献の在り方について十分な論議が行われるよう強く期待するものである。

6 終わりに、今回の代表団の訪米に当たり、格別の御協力をいただいたアメリカ合衆国側関係者及び在アメリカ合衆国日本大使館の関係者に対し、ここに深い感謝の意を表するものである。

学術分野における国際貢献について(会長談話)

平成4年10月22日

現在、我が国の国際的な貢献が強く求められており、各方面でその方策が討議されているところである。日本学術会議としては、平成3年10月の第113回総会において、時の坂本三十次内閣官房長官から、学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討するよう求められ、以来、特別委員会を設けて検討するとともに、今回の第115回総会においても、会員全員による討議を行った。

今回の総会での討議を踏まえ、私としては、次の点を強調したい。

1 本来学術の国際貢献とは、日本における学術研究の成果を広く世界に伝達・発信し、学術の進歩に貢献することである。

2 海外から研究者が進んで来日し、優れた研究成果を挙げられるような高水準の研究施設を整備するとともに、外国人が日本の文化・学術を吸収する能力を高められるような諸条件を整備・充実する必要がある。

3 上記2を実現するためには、省庁の枠を超え、官民の総力を結集して、必要な資金の確保、人材の養成等についての基本方策を策定し、推進する新しいシステム(例えば学術協力機構)が必要である。

上記の趣旨を踏まえ、本会議としては、具体的な貢献策について提案すべく、全力を挙げて検討し、速やかに結論に達したいと考えている。

日本学術会議主催公開講演会

本会議では、毎年公開講演会を開催しています。この講演会は会員が講師となり、一つのテーマを学術的に展開しています。平成4年度最後の公開講演会が決まりましたので、お知らせします。多数の方々の御来場をお願いします。入場は無料です。

公開講演会「科学技術を通じての国際貢献」

日時 平成5年2月22日(月) 13:30~16:30

会場 日本学術会議講堂

演題・演者

「日本の科学技術」

西澤潤一 第5部会員
(東北大学学長)

「社会科学と自然科学との学際研究を通じての国際貢献」

松田武彦 第1部会員
(座能大学学長)

「日本の貴重な体験の伝授」

猪瀬 博 第5部会員
(学術情報センター所長)

「21世紀の科学技術」

近藤次郎
日本学術会議会長

〔申込み先〕 はがきに、住所・氏名・郵便番号を明記し、2月15日までに下記宛てお申し込みください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局「公開講演会係」

☎ 03-3403-6291 内線 227,228

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

会 員 異 動

(1992年7～10月)

＜新入会員＞

(氏 名)	(所 属)	(住 所)	(①テーマ, ②材料)
磯川桂太郎	日本大・歯・解剖学第2講座	〒101 千代田区神田駿河台1-8-13	①組織間相互作用と結合組織 ②ニワトリ胚
大原 生子	近畿大・医	〒589 大阪府大阪狭山市大野東377-2	①生殖分子生物学 ②ラット
加藤 逸郎	大阪大・歯・第2口腔外科	〒565 吹田市山田丘1-8	①口蓋の発生
栗栖浩二郎	大阪大・歯・第1口腔解剖学	〒565 吹田市山田丘1-8	①口腔組織の発生・分化 ②マウス, ラット
近藤 玄	大阪大・微生物病腫瘍ウイルス	〒565 吹田市山田丘3-1	①生殖細胞の発癌・増殖機構 ②マウス
斉藤 直敏	富山医科薬科大・医・第1病理学	〒930-01 富山市杉谷2630	①神経系の発生 神経伝導路形成
松居 靖久	東北大・抗酸菌病研究所細胞生物学	〒980 仙台市青葉区星稜町4-1	①始原生殖細胞の培養・増殖因子解析
松原 茂樹	自治医科大・産科婦人科学	〒329-04 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1	①胎盤の発生・機能・形態
学美濃川拓哉	東京大・理・臨海実験所	〒238-02 三浦市三崎町小網代1024	①棘皮動物における個体発生と系統発生の関わり ②ウニ類
学和田 直之	東北大・理・生物	〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉	①四肢の軟骨パターン形成 ②ニワトリ
学渡辺 明彦	東北大・理・生物	〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉	①四肢の軟骨パターン形成 ②ニワトリ
年森 清隆	宮崎医科大	〒889-16 宮崎県宮崎郡清武町大字本原5200	①生殖細胞の分化・受精・細胞分化 ②ラット, マウス, ハムスター
学佐藤 陽子	東京大・大学院理学系研究科	〒113 文京区本郷7-3-1	①着底・変態機構 ②ホヤ
小沢 政之	鹿児島大・医・生化学第二講座	〒890 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1	①細胞接着・細胞識別 ②テラトカルミノーマ

(氏 名)	(所 属)	(住 所)	(①テーマ, ②材料)
跡見 順子	東京大・教養	〒153 目黒区駒場3-8-1	①ストレスプロテインの 発現と発生 ②ラット, ニワトリ, マウス
小池 敏	アップション・ファーマ シユウティカルズ・リミ テッド筑波総合研究所	〒300-42つくば市和台23	①細胞成長因子と未分化 生殖腺の性分化 ②ラット
田畑 洋文	㈱日本セイギケン総合 研究所	〒433 浜松市葵町95-10	①医薬品等生殖発生毒性 試験 ②ラット, ウサギ

<所属・住所変更>

(氏 名)	(所 属)	(住 所)
中塚 光史	ベーリンガー・マンハイム東宝㈱ 薬事・医薬情報部	〒105 港区虎ノ門3-18-19
高宗 和史	熊本大・理・生物科学	〒860 熊本市黒髪2
阿部 宏之	㈱機能性ペプチド研究所	〒990 山形市南三番町11-26
羽畑 祐吾	武田薬品工業㈱筑波研究所	〒300-42 つくば市和台10
峰雪 芳宣	広島大・理・植物	〒724 東広島市鏡山1-3
千葉 和義	東京工業大・生命理工・生命理学	〒227 横浜市緑区長津田4259
河合 明子	岡崎基生研・遺伝子発現統御	〒444 岡崎市明大寺町字西郷中38
山岸 敏之	横浜市立大・総合理学研究科	〒236 横浜市金沢区瀬戸22-2
桑名 貴	国立水俣病研究センター病理室	〒867 水俣市浜字下外平4058-18
佐々木 一	明治乳業細胞工学センター	〒250 小田原市成田540
西岡みどり	広島大・理・両生類研究施設	〒724 東広島市鏡山1-1-3
沢田美智子	通産省工業技術院北海道工業開 発試験所応用化学部生物化学課	〒062 札幌市豊平区月寒東2条17丁目2-1
星 元紀	東京工業大・生命理工・生命理 学・分子発生学講座	〒227 横浜市緑区長津田町4259
勝木 元也	九州大・生体防御医学研究所細 胞学部門	〒812 福岡市東区馬出3-1-1
島田 和哉	幸芳耳鼻咽喉科医院	〒400-06 山梨県南巨摩郡鯉沢町765-1
清水 克彦	新技術事業団伏谷着生機構プロ ジェクト	〒235 横浜市磯子区新磯子町27 ㈱新潟鐵工所横浜開発センター内
栗原 靖之	横浜国立大・工・物質工学科生 物工学大講座	〒横浜市保土ヶ谷区常盤台156

(氏 名)	(所 属)	(住 所)
学竹本経緯子	京都大・ウイルス研究所	〒606 京都市左京区聖護院川原町
小山内 実	金沢大・理・生物	〒920-11 金沢市角間町
山田 武	東邦大・医・生物学研究室	〒143 大田区大森西5-21-16
弓削 昌弘	福岡女子大・家政学・動物学教室	〒813 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
広瀬 裕一	筑波大・下田臨海実験センター	〒415 下田市5-10-1
益田 佳織	日本医科大・薬理学	〒113 文京区千駄木1-1-5
宮村 毅	宝酒造(株)バイオ研究所	〒520-21 大津市瀬田3-4-1
学森 茂俊	国立予防衛生研究所放射能管理 室	〒162 新宿区戸山1-23-1
大滝 哲也	二松学舎大・沼南校	〒277 千葉県東葛飾郡南町大井2590
星野善一郎	岩手大・教育・生物学	〒020 盛岡市上田3-18-33
山下 晶子	日本大・医・第二解剖学教室	〒173 板橋区大谷口上町30-1
小阪 淳	大阪大・医・生理学第二講座	〒565 吹田市山田丘2-2
太田 訓正	熊本大・医・脳免疫統合科学系 神経分化学	〒862 熊本市九品寺4-24-1
清本 正人	養殖研究所南勢庁舎遺伝伝育種 部	〒516-01 三重県度会郡南勢町中津浜浦 422-1

<退 会>

山下 菊治, 寺倉 宏嗣, 小林 英紀

〔賛助会員〕

- | | | |
|---------------------------|-------|---|
| 組織培養はパイレックス・コーニングの岩城硝子(株) | 〒 100 | 千代田区丸の内3-2-3
TEL 03-3214-6221 |
| 生物学・生態学洋書のことならグリーン洋書(株) | 〒 210 | 川崎市幸区塚越2-260
TEL 044-533-0470 |
| 試薬・機器の御用命は名古屋片山化学(株)まで | 〒 460 | 名古屋市中区丸の内3-11-14
TEL 052-971-6531 |
| 日製産業株式会社 | 〒 453 | 名古屋市中村区名駅4-6-18
(名古屋ビル内)
TEL 052-583-5846 |
| 発生学をはじめとする生物科学書の出版社・培風館 | 〒 102 | 千代田区九段南4-3-12
TEL 03-3262-5256 |
| 藤本理化 | 〒 113 | 文京区向ヶ丘2-34-12
TEL 03-3827-8151 |
| 三菱化成生命科学研究所 | 〒 194 | 町田市南大谷11
TEL 0427-24-6226 |
| 明治乳業(株)ヘルスサイエンス研究所 | 〒 250 | 小田原市成田540
TEL |
| 試薬及び理化学機器販売の理科研(株) | 〒 463 | 名古屋市守山区元郷2-107
TEL 052-798-6151 |
| 科学の技術に奉仕する理工学社 | 〒 113 | 文京区本駒込5-9-10
TEL 03-3928-5211 |
| 次代を担うバイオテクノロジー和研薬(株) | 〒 606 | 京都市左京区北白川西伊織町25
TEL 075-721-0491 |

(50音順)

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会

会 長 江 口 吾 朗

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生学者を混じえて約900名を結集しております。発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学者の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますよう御願ひ申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物(会員名簿を含む)が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：本発生生物学会事務局

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部動物学教室内

-----切-----り-----取-----り-----線-----

日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(_____ 口 _____ 円)

住 所

会 社 名

⑧

担当者名
電話番号

広告掲載のお願い

日本発生生物学会は理学、医学、薬学、農学をはじめ分子生物学、細胞生物学、遺伝学など、さまざまな生物学分野で発生生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり、国内外に約900人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は、日本発生生物学会の機関誌で年6回発行し、国内に約1,000部、国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下、本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等、是非ご協力頂きますようお願い致します。

広 告 料			
DGD本部	1 頁	年 6 回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション	1 頁	年 3 回	30,000円
サーキュラー	半 頁	〃	15,000円

申し込み先：日本発生生物学会

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部動物学教室

-----切-----り-----取-----り-----線-----

広告申し込み書

年 月 日

日本発生生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

☐ DGD本部	1 頁
☐ 〃	半頁
☐ サーキュラー	1 頁
☐ 〃	半頁
住 所	
会 社 名	
担当者名	
電話番号	

日本発生生物学会 第26回大会

特別割引航空券および宿泊のご案内

1993年5月26日(水)～28日(金)の3日間、福岡市におきまして、標記学会が盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

つきましては、学会ご参加の皆様のご便宜をお図りする為、航空券・宿泊等のお世話を(株)三慶(Medy Tour)が取り扱わせて頂くことになりました。

会員の皆様には、お誘い合せのうえ、多数ご利用下さいますようご案内申し上げます。

国内旅行業登録東京都第2455号

(株)三慶(Medy Tour)

①航空券利用のご案内

下記の設定便をお申し込みされますと、設定便特別運賃を適用させていただきます。又、設定便以外の曜日、出発時刻をお申し込みされますと、その時刻に合わせてご予約致します。

●設定便(網かけ部分が特別設定便扱いとなります)

発着地	ご出発便(往路) ※略号にてお選び下さい				お帰り便(復路) ※略号にてお選び下さい			
	略号	5/25(水)	略号	5/26(木)	略号	5/28(金)	略号	5/29(土)
札幌	SF-1	12:15頃	SF-2	12:15頃	FS-1	10:30頃	FS-2	10:30頃
仙台	DF-1	14:00頃	DF-2	14:00頃	FD-1	11:55頃	FD-2	11:55頃
東京	TF-1	11:00 13:00	TF-4	07:00 08:00	FT-1	13:30 15:30	FT-4	09:00 11:30
	TF-2	13:00 15:30	TF-5	10:00 12:00	FT-2	17:30 18:30	FT-5	13:30 15:30
	TF-3	17:00 19:00	TF-6	17:00 19:00	FT-3	19:00 20:30	FT-6	17:30 18:30
大阪	OF-1	15:30頃	OF-3	07:30頃	FO-1	17:20頃	FO-2	09:25頃
	OF-2	20:15頃	—	—	—	—	FO-3	17:20頃
名古屋	PF-1	18:30頃	PF-2	08:30頃	FP-1	19:00頃	FP-2	19:00頃

※上記出発時刻は1992年11月現在の仮ダイヤに基づいておりますので、多少変更になる場合がございます。

あらかじめご了承下さい。

※特別設定便、設定便において、弊社の集客が15名未満の場合、設定便運賃でご利用して頂く為に、便の変更をお願いする場合がございます。もしくは割増し運賃となりますのであらかじめご了承下さい。

※空港から博多駅までは、連絡バスにて15分(250円)、天神(西鉄福岡駅)までは17分(290円)です。

●特別割引片道運賃

	札幌—福岡	仙台—福岡	東京—福岡	大阪—福岡	名古屋—福岡
特別設定便	28,000円	27,500円	16,000円	11,800円	13,000円
設定便	29,000円	29,900円	17,500円	12,500円	14,000円
普通	39,950円	33,150円	25,350円	14,400円	17,200円

②宿泊利用のご案内

※下記料金は1泊朝食付、税金、サービス料込のお一人様の学会割引料金です。

区分	ホテル名	料金	略号
A	西鉄グランドホテル	他 シングル 13,500～15,000円	AS
		ツイン 12,000～13,000円	AT
B	東京第一ホテル福岡	他 シングル 9,500～10,000円	BS
		ツイン 8,000～9,000円	BT
C	博多シティーホテル 三井アーバンホテル福岡	他 シングル 8,200～9,000円	CS
		ツイン 8,000～9,000円	CT
D	東映イン博多 アークホテル博多	他 シングル 6,500～7,500円	DS
		ツイン 5,500～7,000円	DT

※ご希望のホテルがございましたらお書き下さい。尚、満室の場合は同クラスのホテルをご手配します。

※ホテル名及び部屋料金は、割振後、予約確認書にてお知らせ致します。

※ツインをご利用の方は、同室の方のお名前もご記入下さい。

※上記料金は1992年度のもので多少、変動がありますことをご了承下さい。

③国内旅行傷害保険のご案内

5月25日～31日の間で家を出られてからお帰りまでのご旅行期間中、下記にてお取り扱いしております。
ご希望のタイプをご記入下さい。

タイプ		A	B	C
補償内容	死亡・後遺障害	4,256万円	3,149万円	1,969万円
	入院(日額)	10,000円	8,000円	6,000円
	通院(日額)	5,000円	4,000円	4,000円
保険料		2,000円	1,500円	1,000円

※お申し込み頂いた国内旅行傷害保険契約に関しまして、予約確認書に契約証番号が明記されますので、旅行終了まで大切に保管しておいて下さい。尚、保険契約は入金確認後、有効となります。

④レンタカー利用のご案内

「コンベンション&レンタカープラン」：ニッポンレンタカーとの提携により特別料金でレンタカーをご利用頂けます。詳しくはお問い合わせ下さい。

⑤お申し込み方法

※ご予約は、お早目にお申込書に必要事項をご記入のうえお申し込み下さい。

(正確を期する為、必ず申込書にてお申し込み下さい)

※ファクシミリでも受け付け致します。

※お申し込みを頂き、予約確認書はご出発の20日前頃にお手元にご送付致します。

※予約確認書が届きましたら、料金を到着後5日以内にお振込み下さい。原則として入金確認のうえ、航空券、宿泊クーポン等をご送付致します。尚、チケット類はご出発の1週間から4日前までにお手元に届くようにご送付致します。

※予約確認書及び航空券等の発送のため、お申し込み1名様につき、諸経費として500円を申し受けます。

⑥お申し込み受付期間

※お早めにお申し込み下さい

1993年4月23日(金)まで

⑦お申し込み及びお問い合わせ先

●株式会社三 慶 (Medy Tour)

〒170 東京都豊島区東池袋1-25-17
ウエストビル2F

☎ 03 (3987) 2631 (受付時間：平日10:00～17:30)
FAX 03 (3987) 4659

⑧お振込み先

第一勧業銀行池袋支店(当座) No. 0116112

三菱銀行池袋東口支店(当座) No. 9014375

株式会社 三 慶

⑨変更料及び違約料・取消料について

お申し込み後、お客様のご都合で予約を変更又は取り消される場合は、1名様につき下記の変更料又は取消料を頂きます。尚、航空券の取消料につきましては普通運賃に換算したものと致します。

(イ) 変更手数料・航空券(1名様1件につき下記の手数料を頂きます)

14日前から4日前まで	3日前から当日
1,000円	3,000円

※航空便の変更で航空会社が変わる場合は、取消料を頂きます。

(ホ) お申し込みから15日前までにお
取り消された場合は、1名様
1件につき違約料として1000円
頂きます。

(ロ) 航空券(1名様1区間につき下記の取消料を頂きます)

航空運賃	14日前から4日前まで	搭乗日の3日前以降
10,000円以上20,000円未満	3,000円	5,000円
20,000円以上30,000円未満	4,000円	7,000円
30,000円以上	5,000円	9,000円

(ハ) 宿泊(1名様1件につき下記の取消料を頂きます)

14日前から4日前まで	3日前以降	無連絡の場合
1,500円	宿泊料の50%	宿泊料の100%

(ニ) 変更、取消等によりご返金が発生した場合、実費を差引かせて頂きます。

日本発生物学会 第26回大会 航空券・宿泊申込書

【記入例】 お申込締切日 4月23日(金)

フリガナ	性別	航空券	宿泊	宿泊月日	希望ホテル	保険
氏名	年齢	往路	復路	※O印にてお選び下さい	※O印にてお選び下さい	タイプ
サン ケイ タロウ	30 歳	TF-1FT-1	AS BS CS DS AT BT CT DT	5/25 5/26 5/27 5/28	特になし	A
1 三 慶 太 郎						

お申込日 月 日

予約確認書送り先氏名		住所 (〒)		TEL ()		勤務先/自宅	
フリガナ	氏名	年齢	性別	航空券	往路	復路	宿泊
							希望ホテル
1		歳	男・女				5/25 5/26 5/27 5/28
2		歳	男・女				5/25 5/26 5/27 5/28
3		歳	男・女				5/25 5/26 5/27 5/28
4		歳	男・女				5/25 5/26 5/27 5/28
5		歳	男・女				5/25 5/26 5/27 5/28
(通言欄)							

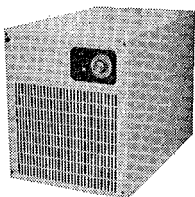
生物研究関連機器 <恒温装置・環境装置>

AQUA

加熱冷却ユニット

クーラー・ヒーターはチタン製。淡水はもちろん海水や薬品液にも使用できる高性能の循環式小型加熱冷却装置です。

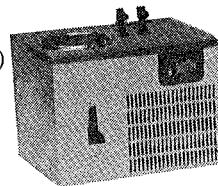
形式	クーラー	ヒーター	概略水量	価格
HC061A-3	65W	300W	120ℓ	¥213,000
HC101A-3	100W	300W	160ℓ	¥225,000
HC131A-5	130W	500W	260ℓ	¥239,000
HC201A-5	200W	500W	360ℓ	¥258,000
HC301A-5	300W	500W	670ℓ	¥321,000
HC401A-5	400W	500W	1000ℓ	¥360,000



低温恒温循環水槽

実験台上でも使用できるように極めてコンパクトにまとめた低温恒温循環水槽です。水温は低温から高温までを任意に設定することができます。外部循環機能をもっておりまして恒温水槽のほか、カラムの冷却、保温など幅広い用途があります。

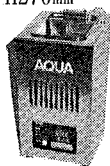
形式:CT 65-300-S
使用温度範囲:0~50℃ (±0.1℃)
外形寸法:W420×D330×H340mm
槽内寸法:φ153×H187mm
冷凍機:65W ヒーター:300W
価格:¥250,000



超小型ウォーターバス式インキュベーター

極めてコンパクトにまとめた超小型の恒温槽です。50ml程度のピーカーや小型の試験管数本の恒温を得る用途に適しています。

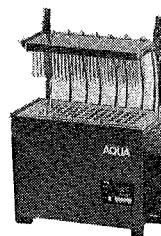
形式:CTH-100(加熱専用型)/CTC-100(加熱冷却型)
外形寸法:146×176×h225mm/146×176×h270mm
温度範囲:室温+5~60℃/+5~60℃
温度精度:±0.05~±0.1℃
槽材質:ステンレス SUS304
槽内寸法:98×100×h59mm
本体価格:¥98,000/¥168,000



ゼットコンデンサー

空気または窒素ガスを試験管内に吹きつけ、溶媒の蒸発を促進し、濃縮時間を短縮する装置です。

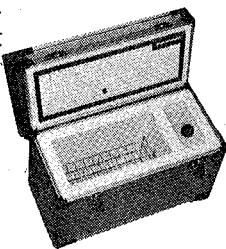
形式:JC 70-300
外形寸法:350×191×h540mm
槽内寸法:300×120×h70mm
温度範囲:室温~100℃ ±0.4deg
吹出ノズル本数:70本
ヒーター:300W
空気ポンプ:20W
電源:100V
価格:¥310,000



恒温コンテナー

蓄冷体の融解速度を微量にコントロールして恒温を保つ小型の恒温輸送用コンテナーです。凍結したら困るあらゆる物体の低温での恒温輸送に威力を発揮します。商用電源、大型バッテリーを使用しないので可動性に富みどこでも使えます。

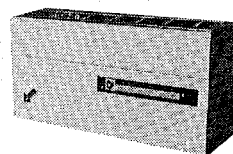
形式:CTC-422
外形寸法:407×193×H298mm
庫内寸法:246×122×H200mm
コントローラー:デジタル設定、デジタル表示
価格:¥88,900(蓄冷体-5℃付)



温度勾配装置(ウォーターバス)

温度調節水槽はそれぞれ独自の温度に設定できます。精度の高い恒温が得られます。温度の設定はデジタル式。振とう装置付きもあります。

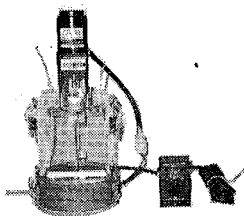
形式:TGW-3(三連)/TGW-5(五連)
使用温度範囲:0~50℃
温度調節精度:±0.05~±0.1℃
槽内寸法:150×260×150×3/5
冷凍機:200W 300W
ヒーター:90W×3/5
価格:¥788,000/¥970,000



本城式プランクトン濃縮装置

プランクトンを効率よく回収する装置です。プランクトン細胞の崩壊が少なく、低濃度で分布している種類を観察することができます。ろ過水はプランクトンの体液が混入しない純水なものが得られます。ろ紙の表面は目詰まりしにくく早い流速が得られます。

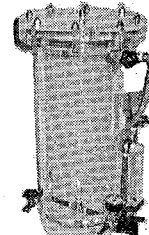
形式:PC15-S
回収率:80~95%
価格:¥98,000



加圧式インキュベーター

空気または不活性ガスで加圧した環境下で各種生物を培養する装置です。新鮮な空気を常に供給しながら一定圧を保つことができますので安定した培養環境が得られます。

形式:PI 203
最大使用圧力:2.5kg/cm²
内寸法:φ190×h440mm
外形寸法:φ280×h530mm
本体材質:透明アクリル
価格:¥198,000(加圧ポンプは別)
給水装置 減圧弁・安全弁付



アクア株式会社

〒141 東京都品川区西五反田2-10-8

TEL. 03-3495-5668 / FAX. 03-3495-5688

生細胞の染色に

細胞蛍光標識キット

Cell Linker Technology に基づく細胞染色法で、細胞膜に高親和性を持つ新しいタイプの蛍光色素PKH2またはPKH26 蛍光色素と希釈液とを組み合わせた、細胞蛍光標識キットです。

細胞機能に影響しません

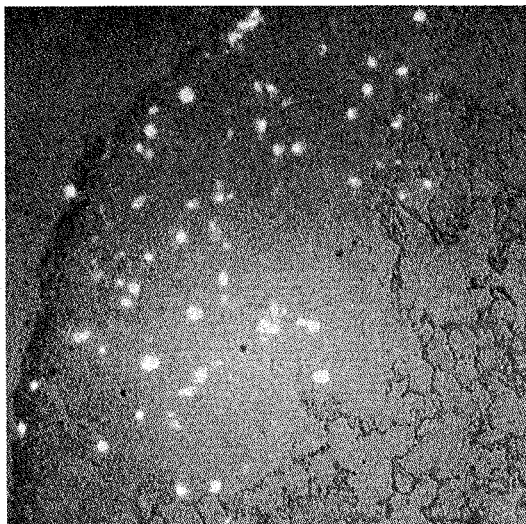
細胞と数分間混合するだけで、生細胞をその機能を損うことなく染色可能で、細胞の移動や増殖のモニタリングに大きな威力を発揮します。

簡便です

従来 ^{51}Cr 等を用いて行われていた LAK 細胞のモニタリングや NK 活性の測定が簡便に、しかも安全に行うことができます。

安定です

ウサギ赤血球を標識した場合、PKH26 では in vivo でその溶出の半減期が100日以上を示し、長期のモニタリングが可能です。



Tumor Localization of PKH26 Labeled TILs.

マウス肺癌組織に浸潤している、PKH26で染色した IL-2 処理リンパ球が観察されます。

Photo Courtesy of
Drs. Per Basse & Ronald H. Goldfarb
Pittsburgh Cancer Institute, Pittsburgh, PA

発売元



大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164 (代表)
東京 (03) 3828-6544 (代表)

マウスのテラトーマ

—EC細胞による哺乳動物の実験発生学—

森脇和郎／序

野口武彦 村松 喬／編集

定価 3914 円(税込)A5判・296頁・並製

テラトーマの生物学的な知識、EC細胞の種類と成立、EC細胞を用いた初期胚の細胞生物学・分子生物学的研究、EC細胞のキメラ動物への応用などについて、研究の進展を紹介し、その理論と実験技術を解説してあります。

哺乳動物の初期発生

—基礎理論と実験法—

妹尾左知丸 加藤淑裕 入谷 明

鈴木秋悦 館 郷／編集

定価 15450 円(税込)B5判・480頁・上製

初期発生の基礎理論をはじめに説明し、ついで初期胚を研究対象とする主要な実験研究法を解説してあります。生命現象研究へ大きな手がかりとなる本書は、医学・生物学・農学・薬学を専攻する研究者の必携の書です。

体細胞遺伝学

山根 績 岡田善雄 堀川正克 黒木登志夫／編集

定価 10094 円(税込)A5判・720頁・上製

HVJによる細胞融合法、薬物や放射線、化学物質を用いた細胞の突然変異による研究、あるいは遺伝子組換え法を使った研究等体細胞遺伝学研究の最前線をまとめたモノグラフィー。医学・生物学・農学・薬学研究に絶好の参考書です。

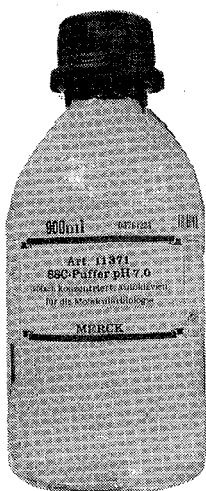
理工学社

東京都文京区本駒込5-9-10 電話 03(3828)5211(代) 振替口座番号 東京1-34676 〒113

**KANTO
BIOCHEMICALS**

MERCK

トランスファー& ハイブリダイゼーション用試薬



メルクではサザン、ノーザントランスファーとハイブリダイゼーションに用いる試薬を調製し、濃縮タイプまたはReady-to-useタイプとして取り揃えました。

トランスファー用試薬

SSC溶液 pH7.0
20×濃縮液 900ml
オートクレーブ済
DNase、RNase及び
proteaseフリー

ハイブリダイゼーション用試薬

デンハート溶液
50×濃縮液 10ml調製用
凍結乾燥品

なお、上記以外の関連製品及び詳細につきましては下記までお問い合わせ下さい。



関東化学株式会社 試薬事業本部

103 東京都中央区日本橋本町3-2-8 03(3663)7631
541 大阪府中央区瓦町2丁目5番1号 06 (222)2796

KITAZATO®

安定した至適温度での観察に!!

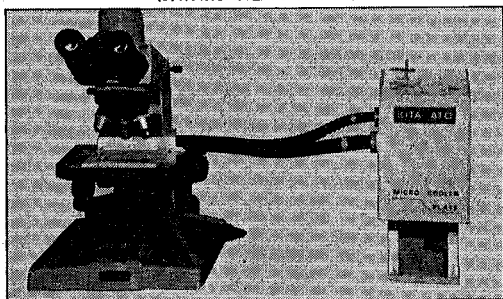
新発売

冷却タイプ

マイクロクーラー・プレート®

(顕微鏡用透明冷却板)

特許申請済



マイクロクーラー・プレートは、室温から-25℃(MC-100)の範囲で霜(曇り)を防止した状態で設定した温度に自動制御します。電子冷却方式の為液体窒素が不要で、更に60mmシャーレーあるいはスライドガラスがセットできる広い透明冷却面となっています。

機種	設定温度	精度	標準価格
MC-10	室温から0℃	±0.5℃	58万円
MC-100	室温から-25℃	±1℃	128万円

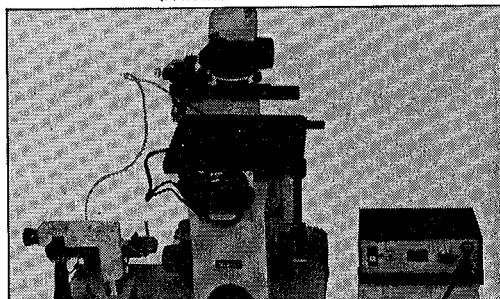
- 「冷却タイプ」「加温タイプ」のカタログのご請求は本社営業部へ。
- プレート形状、ガラス面への穴開け加工等御相談に応じます。

加温タイプ

マイクロウォーム・プレート®

(顕微鏡用透明加温板)

特許申請済



マイクロウォーム・プレートは、透明なガラス板の面全体が発熱体ですのでむらのない均一な表面温度を保ちます。(設定温度：室温～50℃)精密定温下での培養状態観察に、又、細胞組織の電位測定等に活用されております。用途により多機種取り揃えております。

株式会社 北里サプライ

本社営業部 静岡県富士宮市三園平1429 千418

TEL.(0544)27-8831 FAX.(0544)27-6060

東京出張所 TEL.(03)3903-7410

CORNING BETTER SURFACE PRODUCTS

コーティングの時間と
コンタミネーションの不安を解消



■ファイブロネクテンコート製品

コードNo	規 格	培養面積	個/パック	個/外面
25000FN	ディッシュ 35φ	9cm ²	10	60
25010FN	ディッシュ 60φ	21cm ²	10	40
25020FN	ディッシュ100φ	55cm ²	10	40

○ウシ血漿由来ファイブロネクテン

■コラーゲンコート製品

コードNo	規 格	培養面積	個/パック	個/外面
25000COLI	ディッシュ 35φ	9cm ²	10	200
25010COLI	ディッシュ 60φ	21cm ²	10	200
25020COLI	ディッシュ100φ	55cm ²	10	120
25810COLI	マイクロプレート6F	9.4cm ²	1	20
25820COLI	マイクロプレート24F	2cm ²	1	20
25860COLI	マイクロプレート96F	0.32cm ²	1	20
25100COLI	フラスコ 25cm ²	25cm ²	10	60

○ブタ臍由来酸可溶性Type1コラーゲン

■ゼラチンコート製品

コードNo	規 格	培養面積	個/パック	個/外面
25000GEL	ディッシュ 35φ	9cm ²	10	200
25010GEL	ディッシュ 60φ	21cm ²	10	200
25020GEL	ディッシュ100φ	55cm ²	10	120
25810GEL	マイクロプレート6F	9.4cm ²	1	20
25820GEL	マイクロプレート24F	2cm ²	1	20
25860GEL	マイクロプレート96F	0.32cm ²	1	20
25100GEL	フラスコ 25cm ²	25cm ²	10	60

○豚皮由来ゼラチン

ご使用に先立ちサンプルによる事前チェックをおすすめします。35%ディッシュ、サンプルパックを用意しておりますのでご希望の方は本社又は下記支店へご連絡下さい。

岩城硝子株式会社

本社第3営業部 〒100 東京都千代田区丸の内3-2-3 ☎03(214)6221(直)
 ●大阪支店 ☎06(362)6291(代) ●名古屋支店 ☎052(211)3855(代)
 ●九州支店 ☎092(451)5606(代) ●広島支店 ☎082(248)0293(代)
 ●札幌営業所 ☎011(221)3477(代)